

富山高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	言語と文化
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0052	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	エコデザイン工学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	「近代の文章」(筑摩書房)分銅惇作、鈴木醇爾編				
担当教員	高熊 哲也				
<b>到達目標</b>					
授業の目標と概要に掲げた内容について理解を深め、自分なりの思索や調査も加えて、文章に表現することができるようにする。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
テキストの講読	語彙、文体的特徴の理解を踏まえて、テキストを分析できる。	文語文の特徴に即して、テキストの読解ができる。	テキストの概要の理解にとどまる。		
テキストが生成された背景の理解	日本の近代化の歴史を踏まえて、表現者の意図が理解できる。	表現者の問題意識について理解することができる。	時代的背景を視野に入れずに、表現者の意図を恣意的にとらえる。		
各領域の近代化の意味を考える。	現代社会の問題に結びつけて、近代化の意味を理解できる。	近代化の過程を時系列の中に結びつけることができる。	近代化の経緯をとらえる視点が欠如している。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 B-2, 学習・教育到達度目標 C-1, JABEE 1(2)(a)					
<b>教育方法等</b>					
概要	開国以後、近代産業社会の構築が急務であった明治期にあって、どのようなことが要請され、どのような試みの中に、どのような矛盾や課題が起き、時代の進展の中にどのようなことが置き去りにされていったか、その諸相をとらえ理解する。実学の奨励、新しい芸術観の移入と取り組み、そのはずみと限界、産業社会の進展、新しい家族や社会意識の形成、忘れ去られていく旧時代の世界、などをテキスト講読を通して明らかにする。				
授業の進め方と授業内容・方法	担当者の単独講義、演習				
注意点	明治期の文語テキストの講読は、初めての経験に近いと思われる。しっかりと音読し、そのリズムになれること。現代語とのギャップを埋めるために、語彙やタームを綿密に調べること。				
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	ガイダンス 福澤諭吉「学問のすすめ」Ⅰ	講義の狙い、全体概要・計画について説明 「学問のすすめ」第1編講読		
	2週	「学問のすすめ」Ⅱ	実学の奨励が要請された背景に考察を加えながら、福澤の思想の先見性とその限界について考える。		
	3週	坪内逍遙「小説神髓」Ⅰ	「小説神髓」(小説の主眼)の講読		
	4週	坪内逍遙「小説神髓」Ⅱ	西欧からの芸術観の移入を背景に、坪内が唱えた新しい小説のあり方を捉える。旧来の読本や稗史との比較して展開される坪内の主張の自然主義への方向性を押さえつつ、文学表現の多様な可能性についても考察する。		
	5週	幸田露伴「文明の庫」Ⅰ	「文明の庫」講読演習		
	6週	幸田露伴「文明の庫」Ⅱ	演習問題の解答と解説による「文明の庫」講読		
	7週	幸田露伴「文明の庫」Ⅲ	マニファクチャーから、分業と自動化(機械化)による産業技術の進展を背景に、ものづくりの進歩・文明史を説く露伴の思想を把握する。翻って、産業技術の進展が疑いなき善であった時代の思想から、現代の問題を透視してみる。		
	8週	樋口一葉「十三夜」Ⅰ	教科書に採録されていない、上/中も含めて、作品全体を講読する。		
	9週	樋口一葉「十三夜」Ⅱ	西欧の新思潮の移入に伴い、人権思想、民主主義的主張、新しい社会意識・家族観・結婚(恋愛)が知識人層に浸透し始めた。旧来の伝統的(封建的)な価値観との軋轢に苦しむ女性たちの姿を捉えた作品の先見性について考察を加える。		
	10週	樋口一葉「十三夜」Ⅲ	ジェンダーの概念について略説し、明治期の過渡期のテキストには、性差別意識などが無意識のうちにすり込まれていることを、今日的視点から捉え得ることについて考察する。		
	11週	石川啄木「性急なる思想」Ⅰ	「性急なる思想」を講読し、大逆事件に対する啄木の立ち位置に着目しながら、皮相な近代化に対する厳しい批判意識をとらえる。		
	12週	石川啄木「性急なる思想」Ⅱ	啄木の詠んだ和歌の読解を踏まえて、作者の伝記的事実と対照しながら、その思想と実人生の齟齬について考察する。		
	13週	森鷗外「妄想」Ⅰ	「妄想」を初期作品「舞姫」と対照しながら講読する。		
	14週	森鷗外「妄想」Ⅱ	ドイツ留学の意味づけが、「舞姫」から「妄想」いたる間にどのように深化したかを把握しながら、巨人鷗外が自身を時代にどう位置づけていたかを探る。		
	15週	全体のまとめ	近代化の歴史は産業技術の進展とともにあるという意味で、高専に学ぶ学生はその歴史やはずみについて自覚的であるべきこと。また産業技術のみならず、文化・社会に幅広く関心を持って、真の人間の幸福に資することが技術者の社会的責任であること、について考える。		
	16週	期末試験	試験は実施しない		

評価割合		
	レポート	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境社会学
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0040	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	エコデザイン工学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	高松 さおり				
<b>到達目標</b>					
①環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解、説明できる。 ②これまでの環境問題に対する法の役割について理解できる。 ③リスクマネジメントの概念を理解できる。 ④持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解できる。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解・説明し、評価できる。	環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解、説明できる。	環境問題の歴史を俯瞰し、環境問題が起こる社会的背景を理解、説明できない。		
評価項目2	これまでの環境問題に対する法の役割について理解、説明できる。	これまでの環境問題に対する法の役割について理解できる。	これまでの環境問題に対する法の役割について理解できない。		
評価項目3	リスクマネジメントの概念を理解・説明できる。	リスクマネジメントの概念を理解できる。	リスクマネジメントの概念を理解できない。		
評価項目4	持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解・説明できる。	持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解できる。	持続可能な社会構築の必要性と、そのための社会システムのあり方について理解できない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 C-2, JABEE 1(2)(b)					
<b>教育方法等</b>					
概要	環境とは、人間活動と相互作用を及ぼすものであることから、その意味では科学技術のみでは理解できず、社会学的な視点が必要である。その観点から、まず人類の歴史における環境問題を捉え、次に日本において社会問題となった公害からはじめて大気、水環境問題について学ぶ。さらに、現在における廃棄物などの問題でリスクマネジメント等の新たなコンセプトが提唱されており、21世紀の循環型社会構築のための公共政策についても学ぶ。これらについて、より理解をふかめるために、いくつかの課題についてレポートを課す。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義 A (100%) 授業手法1				
注意点	授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。				
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	1週	ガイダンス	本授業の目的を理解し、説明できる。		
	2週	地球の誕生と地球環境の創生	環境問題を理解するため、地球の誕生からどのような経緯を経て現在の地球環境に至っているかを理解し、説明できる。		
	3週	古代の環境問題	古代文明から産業革命までの間にどのような環境問題が起こったか理解し、説明できる。		
	4週	日本の環境問題 (1)	日本の江戸時代から昭和初期に起こった環境問題 (鉱害) の社会的背景を理解し、説明できる。		
	5週	日本の環境問題 (2)	高度経済成長期に起こった四大公害が起こった社会的背景と政府、企業の対応について理解し、説明できる。		
	6週	地球環境問題 (1)	酸性雨、オゾン層破壊などが社会に及ぼす影響について理解し、説明できる。		
	7週	地球環境問題 (2)	野生生物種の減少、生物多様性の重要性について理解し、説明できる。		
	8週	環境問題と経済学	環境問題と経済学との関係について理解し、説明できる。		
	9週	リスクマネジメント (1)	リスクの概念について理解できる。		
	10週	リスクマネジメント (2)	リスクマネジメントの考え方を理解し、説明できる。		
	11週	持続可能な社会を支える法の役割 (1)	持続可能な社会を支えるために、どのような背景で各種法律が制定されたか理解できる。		
	12週	持続可能な社会を支える法の役割 (2)	持続可能な社会を支えるための法律にどのようなものがあるのか理解できる。		
	13週	持続可能な社会システムと環境政策の在り方	持続可能な社会を構築するためには、どのような社会システムを考える必要があるのか理解できる。		
	14週	社会の中の技術、社会のための技術	社会的問題の解決に貢献する科学技術とはどのようなものか、どのように科学技術を社会的問題の解決に役立てていくのかを理解できる。		
	15週	期末試験			
	16週	答案返却、アンケート			
<b>評価割合</b>					
	発表	レポート	学生間の相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---

富山高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環日本海文化論		
科目基礎情報							
科目番号	0047		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高階秀爾『西洋美術史』、中澤敦夫・宮崎衣澄『暮らしの中のロシア・アイコン』						
担当教員	宮崎 衣澄						
到達目標							
西洋美術史におけるアイコン、ロシア文化におけるアイコンについて学習することにより、ロシア宗教・文化事情に関する理解を深める。また、日本への正教会伝道について学び、ロシアと日本の文化交流史に関する理解を深める。 J A B E Eの評価基準を満たすには、60点以上必要である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	西洋美術史の流れとアイコンについて理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、おおよそ理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、理解できていない		
評価項目2	ロシア文化におけるアイコンについて理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて大よそ理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて理解できていない		
評価項目3	明治期の日露交流史について理解できている		明治期の日露交流史について大よそ理解できている		明治期の日露交流史について理解できていない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	環日本海地域のうち、特にロシアに注目し、ロシアの宗教とその表象であるアイコンに焦点をあてる。アイコンを美術史の枠組みで捉えるだけでなく、ロシアの歴史・文化面から分析することにより、ロシアの宗教・文化事情に対する理解を深めることを目的とする。ロシア正教は明治期より日本で宣教活動を行っていることを踏まえ、日本における正教会についても触れ、日露文化交流史について学ぶ。						
授業の進め方と授業内容・方法	講義および発表						
注意点	単位認定には、60点以上の評定が必要です。						
授業計画							
	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
後期	1週	イントロダクション 美術史におけるアイコン			美術史におけるアイコンの歴史的発展について学習する		
	2週	美術史概論①			西洋美術史の流れを理解する		
	3週	美術史概論②			西洋美術史の流れを理解する		
	4週	美術史概論③			西洋美術史の流れを理解する		
	5週	美術史概論④			西洋美術史の流れを理解する		
	6週	美術史概論⑤			西洋美術史の流れを理解する		
	7週	美術館実習事前学習			美術館実習事前学習。美術館所蔵作品について学習する。		
	8週	美術館実習事前学習			富山美術館にて実地研修を行い、作品についての理解を深める		
	9週	実習のまとめと報告会			美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備を行う		
	10週	ロシアとアイコン①			ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する		
	11週	ロシアとアイコン②			ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する		
	12週	日本の正教会			明治期にロシアから日本にもたらされた日本の正教会とその発展について学ぶ		
	13週	美術館実習事前学習			西田美術館において実地研修を行い、作品についての理解を深める		
	14週	実習のまとめと報告準備			美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備を行う 学習したことをまとめる		
	15週	報告会			美術館実習をうけて、ロシア・アイコンの作品をとりあげて発表を行う		
	16週	期末試験			学習内容が理解できているか確認する		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	20	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30